

令和元年9月20日

令和元年度 海外インターンシップ報告書

信州大学 繊維学部 先進繊維工学課程 3年

実習期間	2019年 8月19日(月) ~ 8月25日(日)	7日間
実習企業	KONDO TEXTILES VIET NAM CO., LTD	
実習地	ベトナム社会主義共和国 ビンズオン省	

1. 実習目的

Chapter1 purpose

自分の専攻している繊維工学が社会の現場、特に海外ではどのように使われどのように活かされているのかを間近で見学・体験し現地で働いている日本人の方々がどのように仕事や生活をされているのかを学ぶため本インターンシップに参加しました。また、自身の消極的な性格を海外の文化に触れ現地の方々と交流することで改善したいと思い参加しました。

2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

株式会社近藤紡績所

本社所在地：愛知県名古屋市中区丸の内二丁目18番25号丸の内KSビル（自社ビル）

代表取締役社長：近藤 大揮

従業員数：国内（500名）海外（1700名）

1917年設立の紡績会社で現在ではアパレル、不動産事業も行っている。国内では長野県大町市に紡績工場を持ち、海外では今回お世話になったベトナムの他に中国、インドネシアにも事業所がある。

ベトナムのミーフック工場では約370人の現地従業員の方々と日本からの2名の駐在員の方が働いており、カード糸およびコマ糸の製造を行っている。

また事務手続き等はホーチミンの事務所で行われており、そこでは駐在員の方1名と現地スタッフ6名の方が働いています。

3. 実習日程

Chapter3 schedule

- 8/19 移動日 出国
- 8/20 工場実習、混打綿～梳綿工程、防災システム
- 8/21 工場実習、コマ～精紡工程、
- 8/22 工場実習、捲糸、梱包、改善提案活動
- 8/23 工場実習、実習報告会
- 8/24 ホーチミン事務所訪問
- 8/25 移動日 帰国

1日目(8/19)

成田空港に12:00に集合。同行していただく近藤紡績総務部の木村様と一緒にインターンシップに参加した長野県立大学1年生の青木さんと合流し3人で無事出国。ベトナムに到着したのは夜でしたが空港の外に出るとサウナに入ったようなムワツとした空気で海外に来たのだと実感しました。ホーチミン事務所の平林所長が空港まで迎えにきて下さり、4人で夕食をとったあと市内のホテルにチェックイン。

2日目(8/20)

7:30にホーチミンのホテルを出発し、車で1時間半ほどのミーフック工場まで移動。午前中は関崎社長と田中工場長から会社概況や紡績に関する講義をしていただきました。午後からは紡績の各工程について現地スタッフの方から説明していただき、実際の機械を工場に入って見学しました。この日は混打綿工程と梳綿工程を Quoi さんに説明していただきました。また工場内の防災システムについて若手のエースだという Thien 様に教えていただきました。ベトナム語から日本語への通訳は Thu 様という女性の方が毎日してくださいました。この日の実習を終え、ホーチミンのホテルまで戻り夕食は平林様にベトナム料理屋に連れて行っていただきました。



3日目(8/21)

朝ホーチミンから工場に移動し、この日も紡績の工程毎に講義と実習を受けました。コマや練条といった前紡工程を昨日に引き続き Quoi 様から説明していただきました。繊維をひき揃え、均一にしていく工程です。大学の講義でよく分かっていない所だったので詳しい説明を聞け、勉強になりました。昼休みに青木さんの折り紙で折り鶴を作り女性スタッフの皆さんと交流しました。午後から近隣の工業団地の視察をし、どのような企業があるのかを見学しました。日系や韓国からの企業が多く、製造コスト削減のためベトナムに生産拠点をもってきているとのことでした。工場に戻り粗糸を糸にする精紡工程を Trinh 様に説明していただき、工場内で実際に糸継ぎという糸が切れた際に繋ぎなおす作業の体験をしました。糸継ぎは数日かけて研修し、できない人は精紡以外の工程に配属されるそうです。私は繋げませんでした。

この日からは工場敷地内のジャパンハウスという関崎社長や田中工場長が駐在している施設にお世話になりました。ワンさんという方が食事などを用意してくださりとても快適でした。



4日目(8/22)

この日は捲糸工程から検品・梱包を Kien 様に案内していただきました。その後、試験室を Trinh 様に案内していただき、HV I 測定機という原綿の特性を測る機械などをみせていただきました。この結果をもとに原綿のブレンドを変えたりするため、紡績メーカー毎にノウハウがあるそうです。

田中様から安全に関する講義を受けました。安全は最も優先されるべきもので、もし、怪我などをした時不幸になるのは自分だけではないというお言葉が印象に残りました。講義の後で工場内を見回すと、整理整頓され回転体などの危険物には目立つようにマーキングをするといった工夫がされており、従業員一人一人に安全意識が浸透していると感じました。

また工場内で年二回募集している改善提案に関して年間40件ほど集まる中で代表的な5件について担当の方々から説明を受けました。工場内には古い機械から新型のものまで同じ工程の機械でも数種類あり、古いもので不具合が起きた時は新型の機械を参考にして改良するといった工夫をしていました。

夕食はこの日まで講義や案内をしてくださった現地スタッフの皆様と一緒にレストランに行きました。



5日目(8/23)

午前中はクチトンネルの視察をし、午後から空調システムに関して Dung 様に説明していただきました。工場内の温度は紡績に適した32℃前後に管理されていました。

夕方からの実習報告会に向けて2時間ほど準備の時間をとっていただいた後で関崎様、田中様、木村様の前で10分程度のプレゼンをし、改善点などのアドバイスをしていた

できました。お陰様で無事報告会を終えることができました。



6日目(8/24)

午前中はホーチミン事務所で所長の平林様から事務所の業務内容などについて説明していただきました。青木さんの持ってきた折り紙でスタッフの皆さんと交流しました。午後はホーチミン市内の名所などを案内していただき観光。



夜は現法社長関崎様、工場長田中様もホーチミンまで来ていただき、平林様・木村様・青木さん・私の計6人で、最後に日本食レストランで夕食を一緒に食べました。食事の席で現地スタッフの方々への接し方についてお聞きしたところ、通訳を通しての会話だけでなく簡単な言葉でも直接コミュニケーションを取ろうとする姿勢が大切とのことでした。日本人とは違いはっきりとミスなどを指摘しないと怒っていることが伝わらないため明確な意思表示をしなければならないとおっしゃっていました。また、私生活で海外では特に仕事以外の楽しみややりがいを持つことで仕事にも張り合いが出るそうです。

24:00過ぎの飛行機でホーチミン空港を出発。

7日目(8/25)

朝8時頃、成田空港に到着し解散。上田市に帰宅。

5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

私はこのインターンシップに参加するにあたり、積極的に参加し日々振り返りをするという目標を設定しました。それは過去に他の企業のインターンシップに参加した際にその場で質問をできず、後でその内容を調べることも忘れてしまったことがあったからです。実習1日目ではあまり質問や体験などに対して積極的になれず受け身であったという自覚があり、木村様にも指摘されました。このことを反省し翌日からは質問を自分か

らするなど前向きな姿勢で実習に参加することを意識できたと思います。例えば、最初はベトナムの方にこちらの意図が伝わるだろうかといった心配のせいで質問をためらってしまったりしていましたが、言い回しを変えると工夫ができるようになり、後半ではどうしたら言いたいことを伝えられるかを考えるのも楽しかったです。繊維工学専攻であったため講義で得た知識としては紡績を知っていましたが、今回のインターンシップを通して紡績のことに加え、紡績の「仕事をする事」を知ることができたと思います。それは実際の現場では様々な不具合や予想外のことも起こりそれらに臨機応変に力を合わせて対応していかなければならないのだと感じました。各工程は連動しており、一人でできることには限界があります。そのため、コミュニケーションをとりながら他人の力を借り、時にはフォローをして仕事を進めていかなければいけないため、スタッフ同士で連携することが仕事では大事なのだと実感しました。

6. 今後の課題

Chapter6 problem

今回のインターンシップを通して、自身の課題が2つあることに気づくことができました。1つは、「報告を毎日きちんと記録すること」、2つ目は「指示をされなくても自分から動けるようになること」です。

私は、日々の振り返りをするという目標のためにノートを持っていき、毎日感想などをまとめようと思っていたのですが、3日で記録するのが止まってしまいました。後で見返すと、毎日記録をしっかりとしておく、しっかりと報告できることに繋がると感じました。工夫をして継続できるようにしたいと思います。

また、長野県立大学の青木さんが、スタッフの方々との交流のために折り紙教室をしていた時私は木村様からフォローするように指示をされてから動き出していたので、何も言われなくても行動できるように現場では常に「気を使う」ようにならなければと感じました。

以上は、これは普段の生活でもできていなかったことなので、身近なところから意識していきたいと思います。

7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

私は自分に自信がなくこれまでやったことのないことへの挑戦を避けてしまう傾向があったのですが周りの方からの勧めで今回の海外インターンシップに参加したことで自信ができました。海外という慣れない環境で失敗や苦い経験もありましたがそこから何を学び、どのように次に活かすかが大切だということを経験させていただきました。失敗を恐れず挑戦して欲しいと思います。

8. 謝辞

Chapter8 Address of gratitude

この度のインターンシップに参加させていただきありがとうございました。

受け入れていただいた KONDO TEXTILES VIET NAM CO., LTD 関崎久志社長、田中学工場長、平林一友所長には大変お世話になりました。

引率いただいた木村様には、たくさんサポートをいただき誠にありがとうございました。総務課長加藤様には、チケット手配・ホテル予約・スケジュール作成等行っていただきスムーズに参加させていただくことができました。

皆様のお陰で、海外に行くのも初めてでしたが、充実したインターンシップの経験をさせていただきました。

心より御礼申し上げます。